

月報

国立国会図書館



本の森を歩く 館長 長尾真が読書週間に選ぶ9冊

本を読んで世界を知ろう 学校図書館セット貸出し

2010.10
No. 595

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
03(3506)3301(FAXサービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
	<small>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。</small>	後日複写受付	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30
資料請求時間	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00	オンライン複写受付	月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30
	<small>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。</small>		

■見学のお申込み／国立国会図書館 資料提供部 利用者サービス企画課 03(3581)2331 内線26111

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
利用案内 0774(98)1212(FAXサービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求時間	月～土曜日 10:00～17:15	後日複写受付	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	オンライン複写受付	月～土曜日 10:00～17:00

■見学のお申込み／国立国会図書館関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声・FAXサービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	<small>※1階子どものへや、世界を知るへやおよび3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。</small>	
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求時間 火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日複写受付 火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30	

■見学のお申込み／国立国会図書館国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

10 October

CONTENTS

- 02 見立番附 山中共古のコレクション
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 04 本の森を歩く 特別篇 館長 長尾真が読書週間に選ぶ9冊
- 06 本を読んで世界を知ろう 学校図書館セット貸出し
- 12 憲政資料室の新規公開資料から
石黒忠憲、石黒忠篤、松本烝治、小林次郎関係文書
- 20 数字で見る国立国会図書館 『国立国会図書館年報 平成21年度』から
- 22 図書館と読書 ドイツ・ヨーロッパの経験

19 館内スコープ

30分で伝える調べ方

25 本屋にない本

○『幻の写本 大澤本源氏物語』

○『布と暮らす人たち 東部インドネシアのイカット
平成20年度杉野学園衣裳博物館企画展 江上幹幸
コレクション』

27 お知らせ

○議会開設百二十年記念 議会政治展示会

○第12回図書館総合展に参加します

○国際子ども図書館開館10周年及び国民読書年記念
展示会「絵本の黄金時代1920～1930年代—子ども
たちに託された伝言」関連シンポジウム

○平成22年度障害者サービス担当職員向け講座

○図書館協力事業に関する情報をツイッターで発信
しています

○新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

見立番附 山中共古のコレクション

大沼 宜規

『見立番附』は山中共古（本名笑。1850-1928）旧蔵の番付集である。

山中共古は江戸時代には御家人であり、維新後は静岡に移住しメソジスト派の牧師となった。その傍ら、在野にあって民俗学的・考古学的な研究を進めた人物で、『東京人類学会雑誌』『集古会誌』等に論説が掲載されている。

大判2冊からなる『見立番附』には、大小およそ150枚の番付が貼り込まれている。題籤^{せん}は、「竹清」と印が捺されていることから、江戸研究家三村竹清（1876-1950）が記したものと思われる。随所に山中共古の蔵書印「山中文庫」が捺され、共古自筆による写しや書き入れ、時には友人の筆跡による書き入れなどが見られる。貼り込まれた番付は、長者番付や古泉家（古銭収集家）番付、書画番付など、比較的好く見かけるジャンルに属するものが多いが、珍品と思われるものも含まれている。

写真1は、文化12（1815）年に千住で開かれた酒合戦「水鳥会」の番付である。5合から3升までの盃を用意して飲み比べた結果は、小山田与清『擁書漫筆』の記事によれば、西の大関「河田某」が6升2合、東の小結「大長」が4升を飲み干した、とのことである。その様子を見物に、画師谷文晁・酒井抱一、儒学者亀田鵬斎など当時の文人の大立物も訪れたらしい。

写真2は、亀井戸天神に奉納された額（明治13（1880）年）の写しで、力持の番付である。集古会の仲間玩具研究者であった清水晴風（1851 - 1913）の書き入れによれば、晴風は、若い頃「東京力持の群に加り諸方にて興業ありし毎に出て」いたらしい。「年寄」欄の「筋違車半」は、晴風自身のことで通称半次郎にちなむものと記している。書き

入れが記されたのは随分後のことであろう。「思ひ出しても笑止の至り」と若かりし日のことを語っている。

写真3「花競見立相撲」は、朱筆で記された共古の書き入れによれば、明治元年*から2年ころの「静岡移住士族の男女美人」の番付。すなわち、旧幕臣やその子女などの美男美女番付である。いかに明治の世になったからとはいえ、このようなランキングを作っていたことに驚きを禁じ得ないが、さすがに刊行されたものではないらしい。前頭の「草深 川村清雄」は画家の川村清雄（1852-1934）であろう（写真4）。それにしても、酒合戦に、力自慢、美人ランキングと、やっていることは今も昔も変わらない。

最後に紹介する写真5は、「高松中学校学術競争会」なる番付である（高松中学校は現香川県立高松高等学校）。成績優秀者を示したのものであろう。興味をひかれるのは、「西之方」の大関に増田淳、小結に在塚喜友が、「東之方」の関脇に猪熊信男がいることである。増田は吉野川橋（徳島県）などを設計した増田淳（1883-1947）、在塚は海軍中将となった在塚喜友（1883-1945）、猪熊は宮内省図書寮御用掛などを勤め古文書の収集や研究で知られた猪熊信男（1882-1963）であろう。梅檀^{せん}は双葉より芳しかったのである。

山中共古が手許にまとめておかなければ散逸していたであろうこれらの資料からは、名のある人物の、あまり知られていないであろう姿を垣間見ることができた。山中共古のコレクターぶりやそれを支えた友人たちに感謝せずにはいられない。

（おおぬま よしき 主題情報部人文課）

*前頭の川村清雄が静岡に移住したのは明治2年のことであり、明治元年ではないものと思われる。



写真1

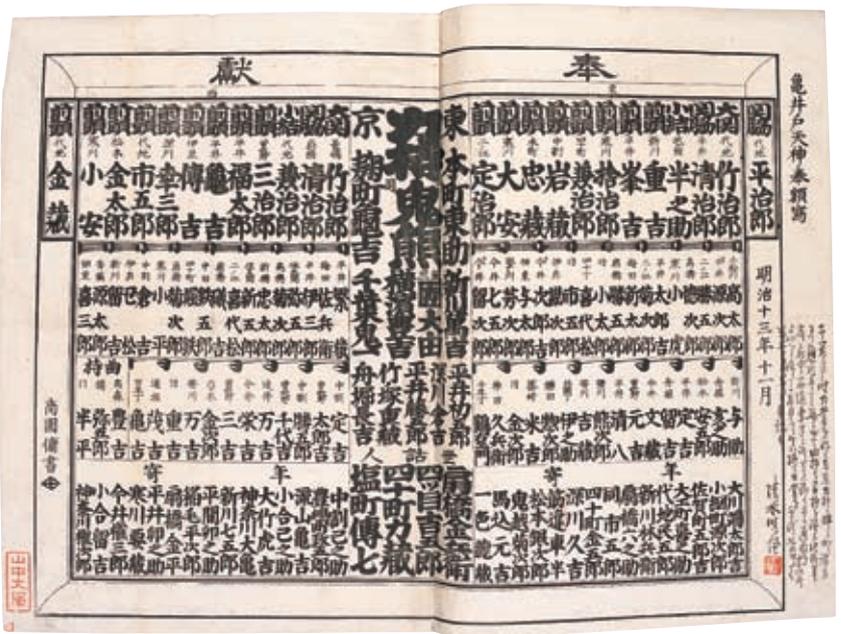


写真2



写真3



写真4



写真5

見立番附 2冊

47.3 × 37.8 cm <請求記号 W991-N40>

※東京本館所蔵

参考文献

- 林直輝、近松義昭、中村浩訳著『おもちゃ博士・清水晴風 郷土玩具の美を発見した男の生涯』社会評論社 2010
- 足立区立郷土博物館編・刊『千住の酒合戦と江戸の文人展 特集』1987

写真1 ままくら源五郎刊。45.5 × 32.6 cm。

写真2 一枚物。刊。38.0 × 52.0 cm。「筋違半」は最下段中央から右に5人目。

写真3 一枚物。写。44.6 × 32.2 cm。大正8年8月山中共古写。底本は江戸研究家林若樹（1875-1938）所蔵。川村清雄は最上段中央から右に1人目。

写真4 川村清雄肖像（部分 明治2年頃）。東京都江戸東京博物館提供。静岡県立美術館編・刊『川村清雄展』（1994）<請求記号 KC16-E3242>に、筆者の見るところ、確かに美男と思わせられる大きな写真が数枚掲載されているので、ご関心のある方はぜひご覧いただきたい。

写真5 一枚物。刊。44.7 × 32.6 cm。左端に「進呈」とある福家梅太郎は香川県農事試験場の初代場長。

特別篇 館長 長尾真が読書週間に選ぶ9冊

今回は、国民読書年の読書週間にあたり、長尾真国立国会図書館長がいくつかの視点から選ぶ本をご紹介します。

忙しい人に

本を1冊きっちり読むというのは時間も必要だし根気もある。現代のように忙しい時代には、その時々に応じてちょっと読むだけでいろいろと参考になる書物が良いだろう。その代表は桑原武夫の『一日一言』(1)である。古今東西の哲人、文人、学者などの言葉が引かれ簡潔に説明されており、ひと駒ごとに写真ものっている。このスタイルの本はそれまでなかったものだが、これ以後類似の本は数多く出されて来た。最近のものでは興膳宏『漢語日暦』(2)が良いだろう。

グローバルな物の見方のために

最近の世界が狭くなって来て政治や経済の面だけでなく文化の面にまでグローバルという言葉が入って来た。世界的な視野で物事を考えねばならないのであるが、それは我々が日常を過ごしている社会の持つ文化や特徴を他との比較という視点からよく検討したうえで、グローバルを考えねばならないだろう。そういった点からはもはや古典となった次の2冊が良いのではないだろうか。和辻哲郎『風土』(3)、梅棹忠夫『文明の生態史観』(4)。これらは具体的なグローバル的課題について考える時の基礎となる考え方を提供してくれると思われる。戦後まもなく広く読まれた笠信太郎『もの見方について』(5)も読みやすく良い本である。

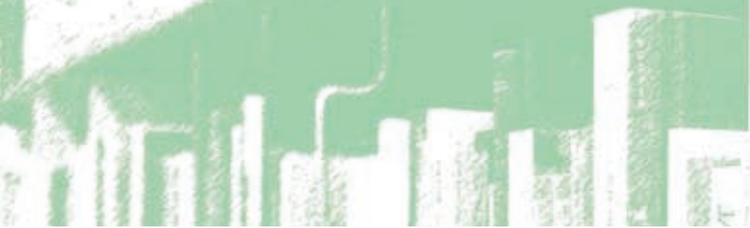
ゆっくりと人生を楽しみたい人に

ゆっくりと人生を楽しんでいる人はきっといろんな本を読んでおられるから、ここでわざわざ「この本をどうぞ」と言うのは無意味であろう。しかし、あえてということであれば随筆集などをお勧めしたい。数えきれない随筆集が出ているから選ぶのに事欠かないが、随筆集の元祖といって良い人はモンテーニュだろう。その『随想録』は日本語訳もいくつかあるが、私は関根秀雄のも

- 1 桑原武夫編『一日一言 人類の知恵』 岩波書店 1988年
<請求記号 US51-E1324>
- 2 興膳宏著『漢語日暦』 岩波書店 2010年
<請求記号 KF91-J76>
- 3 和辻哲郎著『風土 人間学的考察』 岩波書店 1979年
<請求記号 HA144-5>
- 4 梅棹忠夫著『文明の生態史観 ほか』 中央公論新社 2002年
<請求記号 G14-H1>
- 5 笠信太郎著『もの見方について』 朝日新聞社 1987年
<請求記号 EC211-251>



1 2 3 4 5



のを楽しんでいる
(6)。この種の本で
最も大切なことは、
自分の趣味やその
時の気持ちにぴった
りとするものを選
ぶことである。こ
れは非常に難しく
て、これだと思っ
て買って帰ったが、



どうも気分が乗らないということが多い。やむを
えないことである。ほんとうにこれだという本を見つけた時の喜びは大きい。

人物伝は面白い

歴史に残る人々の伝記はかなりの数が出版されてい
て、それぞれの人の人生の考え方、苦勞とその克服の話には深く感銘を受けるものが多い。理科系を目指していた自分にとって学生時代に読んだ『キュリー夫人伝』(7)は涙なしには読めないものだった。数学の人物伝で面白いのは、高木貞治『近世数学史談』(8)であろう。ガロアが決闘でなくなる前夜に友人に残した遺稿が近代代数学への道を開いた話など、世界的な数学者高木貞治氏の筆力に感心させられる。人物伝には入らないだろうが、科学の考え方に基礎を与えたデカルトの『方法序説』(9)も一度は読んで欲しい書である。

(ながお まこと 国立国会図書館長)



長尾真館長の読書歴については、『情報を読む力、学問する心』(ミネルヴァ書房 2010年) <請求記号 GK89-J39> に詳しい。



6 モンテーニュ [著]、関根秀雄訳編『随想録』 文元社 紀伊國屋書店発売 2004年 <請求記号 KR164-H22>

7 エーヴ・キュリー [著]、河野万里子訳『キュリー夫人伝』 白水社 2006年 <請求記号 GK423-H8>

8 高木貞治著『近世数学史談』 岩波書店 1995年 <請求記号 MA25-G1>

9 デカルト [著]『デカルト著作集 1』 増補版 白水社 2001年 <請求記号 HD115-G24> (三宅徳嘉、小池健男共訳「方法序説」を収録)

6 7 8 9

本を読んで世界を知ろう

学校図書館セット貸出し



岩手県岩泉町立釜津田小学校で（10ページに詳細）

今年開館10周年を迎えた国際子ども図書館では、学校図書館への支援の一環として、児童書等約50冊のセットを全国の学校図書館に貸し出しています。スタートから8年、1,500校以上の学校で利用されている「学校図書館セット貸出し」をご紹介します。

学校図書館セット貸出しとは

「学校図書館セット貸出し」は、国際理解をテーマに選んだ本をセットにして、学校図書館に貸し出すサービスです。各セットは、子どもたちが世界の国々や人々への理解と興味を深められるよう、世界の国・地域に関する知識の本、現地の昔話や絵本（原書を含む）など、幅広い分野の資料で構成されています。現在13種類あるセットは、「ヨーロッパセット」「東アジアセット」といった地域別に、対象学年（小学校低学年向、小学校高学年向、中学校向）を設けています。セットは日本全国の学校図書館とこれに準ずる施設で利用することができ、読書週間での資料展示や総合学習の教材などとして利用されています。

お申込み方法

事前予約制です。学期ごとに予約申込みの受付期間を設けており、申込票をFAXでお送りいただきます。お申込みが多い場合は抽選となります。詳細は、国際子ども図書館ホームページ>学校図書館へのサービス>学校図書館セット貸出し>申込方法をご覧ください。

URL <http://www.kodomo.go.jp/school/rent/index-req.html>

※平成22年度3学期分の予約申込受付は、11月1日（月）～11月21日（日）です。



セットの種類（平成22年10月現在）

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| ①世界を知るセット [小学校低学年向] | ⑨北欧セット [小学校高学年向] |
| ②世界を知るセット [小学校高学年向] | ⑩北欧セット [中学校向] |
| ③東アジアセット [小学校高学年向] | ⑪中東・アフリカセット [小学校高学年向] |
| ④東アジアセット [中学校向] | ⑫カナダ・アメリカセット [小学校高学年向] |
| ⑤東南アジア・南アジアセット [小学校高学年向] | ⑬カナダ・アメリカセット [中学校向] |
| ⑥東南アジア・南アジアセット [中学校向] | ◎中南米セット [小学校低学年向] |
| ⑦ヨーロッパセット [小学校低学年向] | ◎中南米セット [中学校向] |
| ⑧ヨーロッパセット [小学校高学年向] | ◎平成23年1月から貸出開始予定 |



セットができるまで

セットの本は、児童サービス課企画推進係が国内外の児童書、一般書から選んでいます。おおまかな選書の流れをご紹介します。

- 1 対象地域の国名とその国の歴史、文化、産業などからキーワードを抽出します。
- 2 それらのキーワードや新刊情報、本のカタログなどをもとに国立国会図書館の蔵書目録を検索し、対象地域に関連する本をリストアップします。
- 3 リストアップした本にすべて目を通し、セットの候補を選びます。
- 4 候補の本をすみずみまで読み込み、評価します。類書の場合は、比較検討し、一番適しているものを選びます。
- 5 評価の高い資料の中から、国と分野の balan

スを見て箱に入る冊数に絞り込みます。

セットには必ず昔話や絵本、現地の風俗・文化等がわかる絵本の原書を入れています。地域によっては、児童書の情報を得るのが難しく、入手にも時間がかかります。また、国内発行の児童書であっても、絶版になるのが早いので、発注しても入手できないことがあります。

セットを送付する際には、その内容や活用方法を紹介した小冊子も同封しています。各セットの資料リストや解題は、国際子ども図書館のホームページ>学校図書館へのサービス>学校図書館セット貸出し>セットの種類と内容 (<http://www.kodomo.go.jp/school/rent/index.html#list>) に掲載していますのでご覧ください。



セットはこのような箱に入れてお届けします

学校・学校図書館での利用

平成14年11月のセット貸出し開始以来、平成21年度末までに、北海道から沖縄まで延べ1,512校で72,765冊の本が利用されました。利用校は全校生徒10人以下の離島の小学校から全校生徒900人以上の首都圏の中学校、特別支援学校や高等学校もあります。



私立大分中学校で（11ページに詳細）

現在、蔵書数や司書教諭および学校司書の配置といった学校図書館の状況は、地域により大きく異なっています。セットの利用方法は、学校、学校図書館の事情により様々です。アンケートを見ると、学校図書館や教室での自由閲覧が最も多く、ほかに、学校図書館での資料展示や読書週間のイベント、「図書の時間」での読み聞かせ、国際理解に関する総合学習の教材として使う例が目立ちます。セットの本から出題したクイズで、子どもたちが楽しく利用できるよう工夫しているところもありました。

平成22年度から、セットを使って学校図書館の活動や学習・読書活動を進めた事例などをホームページでご紹介しています。

学校図書館への支援

学校図書館セット貸出しは、公共図書館と学校

図書館との連携のヒントになれば、ということを実施している事業です。近年、このようなセット貸出しを行う公共図書館が増えており、連携のモデルとして一定の役割を果たしたといえるでしょう。

平成13年施行の「子どもの読書活動の推進に関する法律」により国を挙げて子どもの読書活動推進に取り組んでいる中、学齢期の子どもにとって一番身近な学校図書館は、子どもと本をつなぐための大きな役割を果たすことが期待されています。こうした学校図書館をバックアップできるよう、今後は、セット貸出しのほか、インターネットを通じた関連情報の発信など、さらなる支援の方策を探っていきたいと考えています。

（国際子ども図書館児童サービス課）

学校図書館セット貸出し 利用校の声

岩手県岩泉町立釜津田小学校

本校の子どもたちが世界の国々への理解を深め興味をもてるよう、「世界を知るセット 小学校高学年向」を申し込みました。本校は、全校児童13人の完全複式3学級で図書室の本も限られているので、本校にない本がありそうという期待もありました。

平成21年12月、全校学活の時間を使って読書集会を開き、職員による低学年への読み聞かせ、おすすめ図書の紹介、図書クイズなどを行いました。集

会では、原則としてセットの本を利用しました。また、教室前の廊下にセットの本を並べた特設コーナーを作り、国語などの授業時間中のすきま時間の読書に活用したり、朝読書や休み時間・放課後で自由閲覧したりしました。すべて本校にない本でしたので、子どもたちは興味を持って読んでいました。低学年は、細かい文字や習っていない漢字があっても、絵や写真が興味深かった様子で、積極的に手に取っていました。

(細越 秋子教諭)



セットの本を使った
図書クイズの様子

私立大分中学校

本校はカナダへの修学旅行を実施しているので、生徒が国際理解を深めるための補助教材として活用したいと思い、平成21年11月の「カナダ・アメリカセット 中学校向」を申し込みました。

授業の中では、3学年8クラスで、2時間の読書の時間を設けてセットを利用しました。学校にはない本が多かったのがありがたかったです。このような機会にもっと触れたいという意見も出ました。

授業外では、図書館が併設の大分高校にあり離れているので、理科室を使って昼休みに公開しました。ケースがかなり重かったのですが、生徒たちが自主的に運びました。

セットに含まれていた原書とその翻訳書は、隣同士に並べました。生徒の中には、訳文と原文の訳し方に驚いたり、原文を訳せるかどうか試したりして楽しむ姿も見られました。

(芝尾 仁教頭)



読書の時間
生徒の興味はさまざま

憲政資料室の新規公開資料から

石黒忠憲、石黒忠篤、松本烝治、小林次郎関係文書

国立国会図書館は、幕末・維新时期から現代に至る政治家、官僚、軍人らの所有していた個人文書(憲政資料)を所蔵しています。このたび東京本館憲政資料室で新規公開した「石黒忠憲関係文書」「石黒忠篤関係文書」「松本烝治関係文書」「小林次郎関係文書」と、新規に受け入れた伊藤博文の書簡をご紹介します。

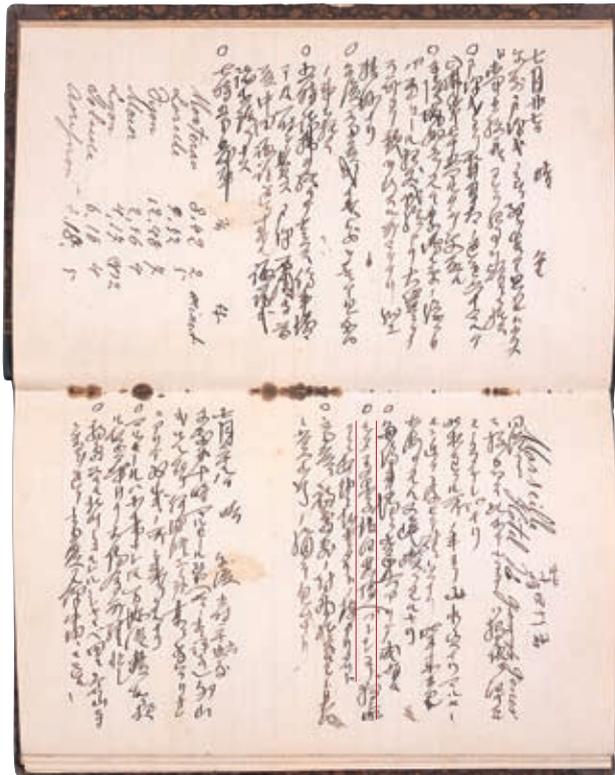


野口英世書簡(石黒忠憲関係文書 934)

1 石黒忠憲関係文書・石黒忠篤関係文書

石黒忠憲関係文書1,916点は、平成22年5月にご遺族から寄贈を受けたものです。このうち1,570点を書簡が占めています。差出人は山県有朋、寺内

正毅、桂太郎などの政府要人をはじめ、軍人、軍医、医者、言論人など多岐にわたり、石黒の交友関係の広さがうかがえます。同じ医師で当時米国のロックフェラー研究所に勤務していた野口英世からは、



ただのり
石黒忠憲 (1845-1941)



長く陸軍軍医を務め、近代軍医制度確立に貢献したことで知られる。福島生まれ。号は況齋、况翁。幕末の元治元(1864)年江戸に出て西洋医学を学び、明治4(1871)年兵部省軍医寮に入り、軍医としての道を歩み始める。明治21(1888)年に軍医学校長、明治23(1890)年に陸軍軍医総監、陸軍省医務局長に就任。明治28(1895)年に男爵、明治35(1902)年に貴族院議員となる。日露戦争中の明治38(1905)年4月に大本営附臨時陸軍検疫本部御用掛。大正6(1917)年には、かつてその創設にもかかわった日本赤十字社の社長に就任。大正9(1920)年子爵となる。
写真：石黒忠憲著『懐舊九十年』 博文館 1936 口絵

石黒忠憲日記 明治21(1888)年7月27日
(石黒忠憲関係文書 1869)

第一次世界大戦への米国医師の従軍について書いた書簡(大正6(1917)年8月19日 前頁写真)が届いており、野口自身も日本赤十字社から派遣された日本代表の医師として米国軍に従軍できるよう、当時社長に就任していた石黒に依頼しています。また別の書簡(大正8(1919)年4月28日)では、黄熱病研究のためにエクアドルに派遣された際の南米の様子や、黄熱病の病原体と思われる細菌が見つかったときのことなどが書かれています。

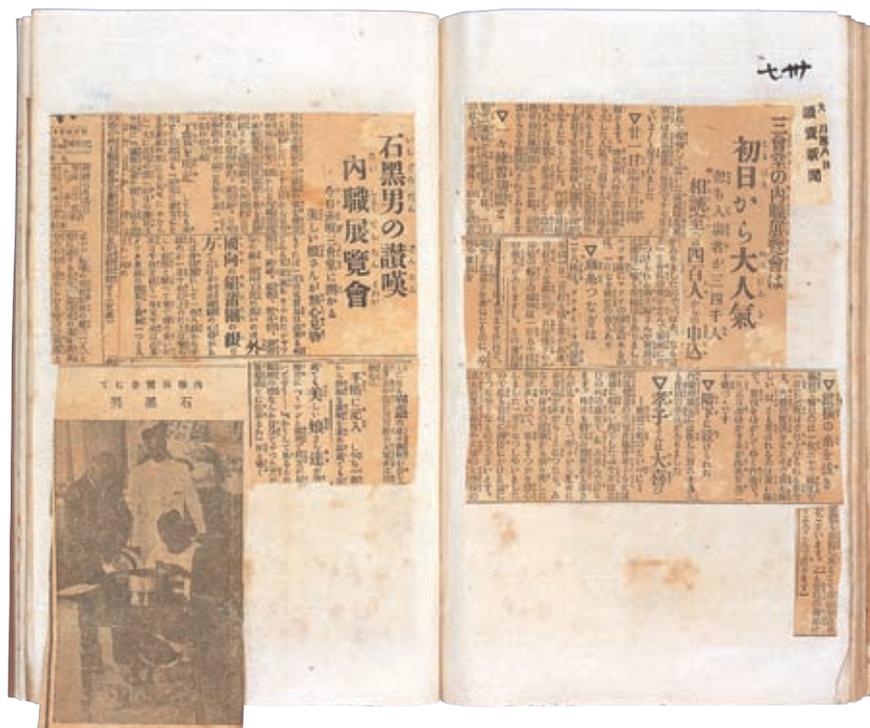
書簡のほか、日記類や石黒自身に関係した新聞・雑誌記事などをスクラップした『^{きょうさいざっさん}況齋雜纂』などがあります。石黒は明治20(1887)年にドイツ・カー

ルスルーエで開催された第4回万国赤十字国際会議に政府委員として出席し、ドイツ陸軍の医療制度を視察しました。その際に通訳を務め、ともに帰途についたのが、当時ドイツ留学中の森鷗外でした。マルセイユを出港する2日前にあたる明治21(1888)年7月27日の日記『日乗 卷四』には、「今夕多木子報曰其情人ブレメンヨリ獨乙船にて本邦ニ赴キタリトノ報アリタリ」と記されています(左上写真 赤線は引用部分)。「多木子」は鷗外を指し(本名の森林太郎に「木」が多いことから)、ドイツ人女性が鷗外の後を追って来日するいわゆる「エリス事件」を予感させる記述です。

日記類は営務日記、旅日記など数種類あり、明治20（1887）年から昭和11（1936）年まで全部で約70点残されています。

『況斎雑纂』（右写真）は、石黒が雑誌や新聞に寄稿した論稿のほか、貴族院での発言や視察についての記事が編年順で貼付された和綴本です。全部で26点あり、明治20年代から大正年間までの石黒の活動を通覧できるものとなっています。

石黒忠憲関係文書の寄贈に際しては、石黒の長男で大正から昭和にかけての農政官僚、政治家として知られる石黒忠篤の旧蔵文書も同時にご遺族から寄贈されました。石黒忠篤は、終戦前には第二次近衛内閣の農林大臣、鈴木貫太郎内閣の農商大臣、貴族院議員を歴任し、戦後は公職追放を経て昭和27（1952）年5月以降参議院議員を務めました。石黒忠篤関係文書は114点で、戦後の資料が主です。吉田茂からの書簡が多く、参議院議員当選の祝いや晩餐会への招待、参議院審議での法案への口添え依頼など24通が残されており、公私



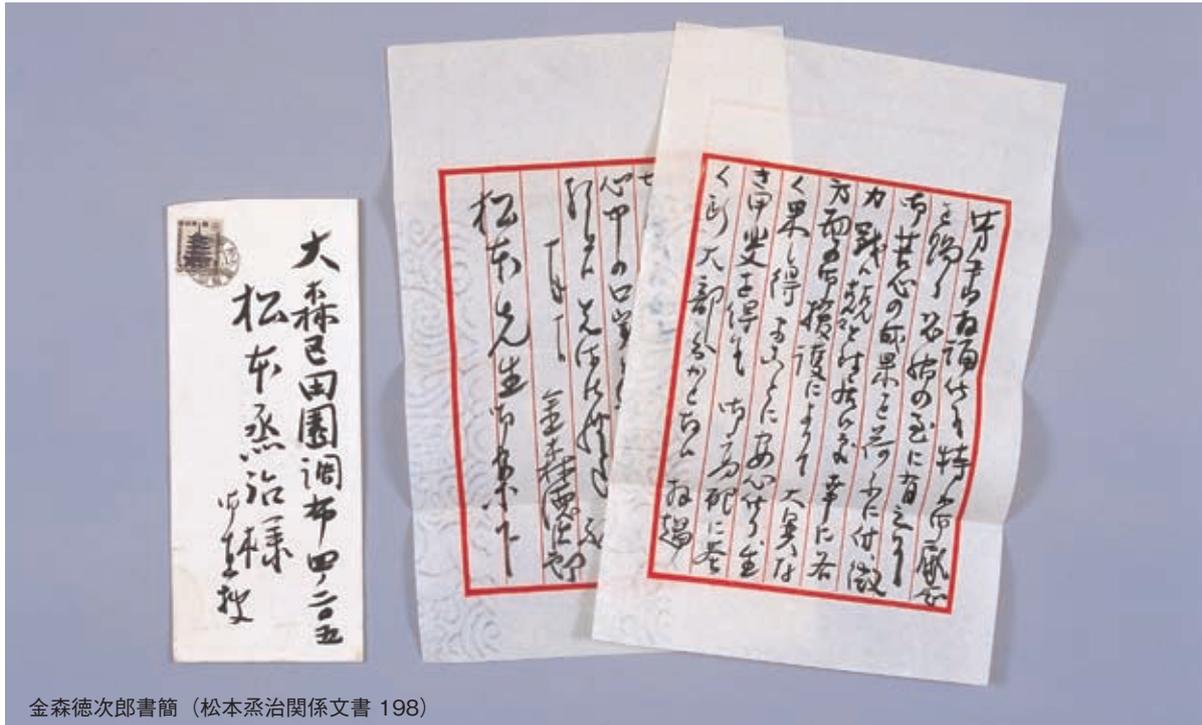
『況斎雑纂』（石黒忠憲関係文書 1680） 写真は、大正8（1919）年9月の新聞記事

にわたって交流があったようです。このほか石黒忠篤自身の書簡草稿なども多く残されています。

ただあつ
石黒忠篤（1884-1960）



写真：日本農業研究所編『石黒忠篤伝』
岩波書店 1969 口絵



金森徳次郎書簡（松本丞治関係文書 198）

2 松本丞治関係文書

松本丞治関係文書978点は、平成22年9月にご遺族から寄贈を受けたものです。そのうち書簡が約400点あり、多くは親族間で交わされた私的なものです。特に、明治39(1906)年から明治42(1909)年の欧米留学時に妻の千に宛てて送ったものが大半を占め、松本が頻繁に手紙を書いていたことがわかります。また近衛文麿、吉田茂、横山大観、柳田国男など各界の著名人から送られた近況報告や様子伺いなどの書簡も多く残されています。そのほか、多数の写真や絵葉書、留学時代、公職追放などに関する資料、明治29年から大正期の日

松本丞治（1877-1954）

東京生まれ。明治33(1900)年東京帝国大学法科大学を卒業、明治39(1906)年には商法研究のため欧米各国へ留学。帰朝の一年後、明治43(1910)年東京帝国大学法科大学教授に就任、大正2(1913)年からは法制局参事官を兼任した。大正8(1919)年から大学を休職して南満州鉄道株式会社の理事に就任、大正10(1921)年には大学を辞職、同年満鉄副社長になる。大正12(1923)年から大正13(1924)年には内閣法制局長官、大正13(1924)年から昭和21(1946)年には貴族院議員を務めた。そして昭和9(1934)年2月から同年7月は斎藤内閣の商工大臣、昭和20年(1945)年10月から昭和21(1946)年5月には幣原内閣の国務大臣(憲法担当)を務めた。



写真：『貴族院要覧』 貴族院事務局 1937 p. 223

記や手帳があります。

松本の名は、GHQに拒否されて実現に至らなかった憲法改正草案、いわゆる「松本案」によって、多くの人々の記憶に残っています。第二次世界大戦後のGHQ占領下で憲法担当の国務大臣であった松本は、憲法問題調査委員会の委員長となり、昭和21（1946）年2月8日に憲法改正要綱（松本案）をGHQに提出しました。ところが2月13日、この松本案はGHQから十分な民主化が見られないとして拒否され、代わりにGHQが作成した憲法案が日本政府に手交されました。

この数か月後、後に初代国立国会図書館長となる金森徳次郎から松本に1通の書簡が届いています（前頁写真）。金森は第90回帝国議会開院前日の昭和21（1946）年6月19日、松本烝治の後任として憲法担当の国務大臣に任命され、翌日からの議会審議に臨みました。この第90回帝国議会は「憲法制定議会」ともいわれ、最大の争点は、日本政府がGHQ案をもとにして作成した新憲法案でした。審議では、新憲法により国体が変わるか否かが焦点となり、金森大臣は、「国体」とは「天皇を憧れの中心とする国民の心の繋り」であり、「政体」は変更されるが「国体」は変更されないと述べて窮地を切り抜けました。

松本宛の金森徳次郎書簡は、第90回帝国議会が閉院する直前の10月10日に書かれたもので、「御苦心の成果を荷ふに付、微力戦々兢々と致し居候

処、幸に各方面の御援護によりて大異なく果し得」と、議会を乗り切った金森の安堵感と前任者である松本への気遣いを感じられます。

3 小林次郎関係文書

小林次郎関係文書32点は、平成22年5月にご遺族から寄贈を受けたものです。日誌をはじめ、戦後の憲法制定に関するノート、メモ類、小林自身が寄稿した雑誌などが残されています。

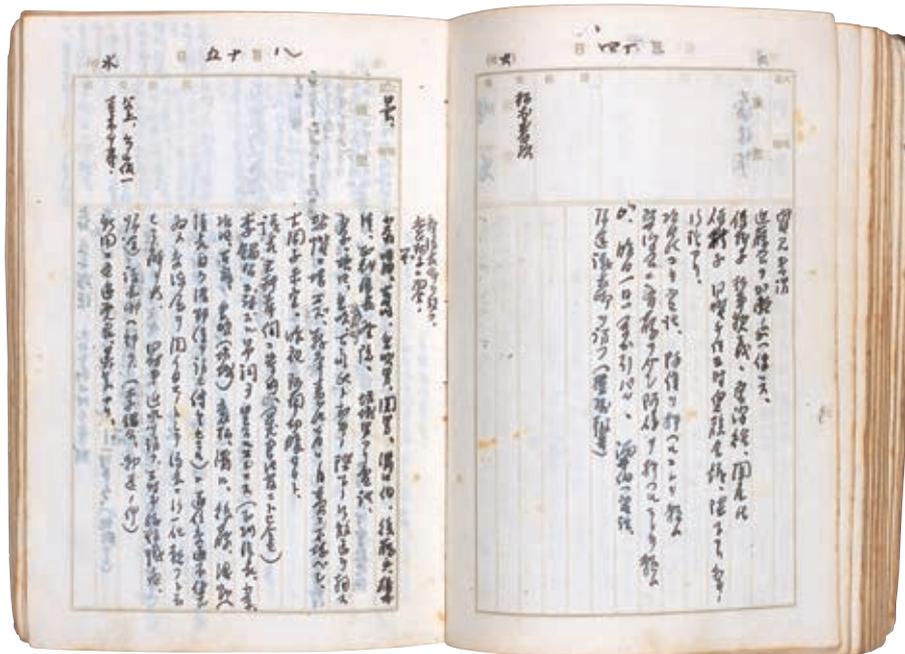
日誌（次頁写真）は昭和20（1945）年のもので、8月15日の項には「正午ノ陛下ノ御放送ヲ拝ス 恐懼ニ堪エズ」「昨夜阿南切腹セリ」など、3ページにわたって当日の様子などが書かれています。また、その5日前の8月10日には、ポツダム宣言の受諾に関して「天皇ノ国家統治大権ヲ変更スル要求ヲ包含シ居ラザルコトノ了解ノ下ニ日本政府

小林次郎（1891-1967）

戦前の貴族院および戦後の参議院の事務局において長を務めた。大正6（1917）年東京帝国大学法科大学を卒業。大正8（1919）年貴族院書記官となる。昭和15（1940）年に貴族院書記官長に就任。昭和22（1947）年5月に参議院の初代事務総長に就任（昭和24（1949）年まで）。



写真：衆議院、参議院編『議会制度七十年史 帝国議会史 上巻』大蔵省印刷局（印刷）1962 口絵



日誌 昭和20(1945)年8月(小林次郎関係文書 1)

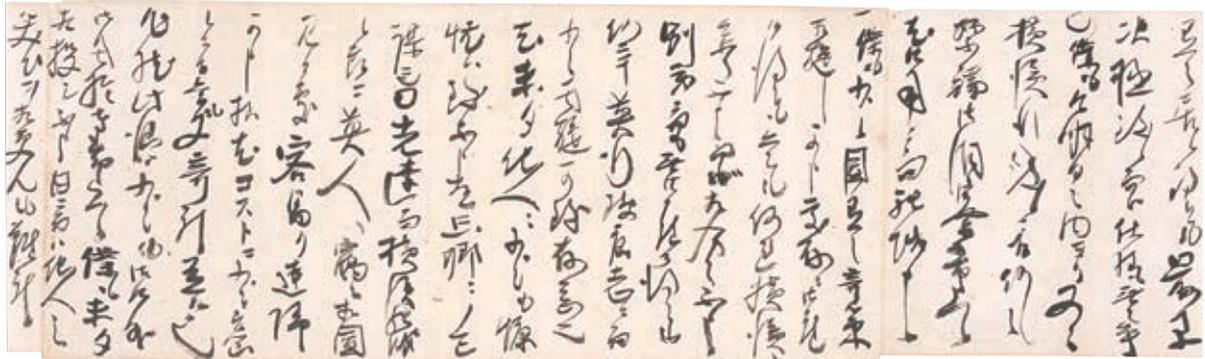
ハコレヲ受諾ス(中立国ヲ通シテ四国(米英支露)ニ通達ス)ルコトトナリ 二三日中ニ発表ス」と政府首脳部内での動きが記録されています。日本の敗戦からGHQの占領が始まる時代であり、日本の議会における事務方トップによる記録は貴重な歴史史料といえます。

国立国会図書館は、同時期に衆議院書記官長を務めた大木操(1891-1981)の日記類を含む大木操関係文書や、貴族院書記官を経て小林の後任の参議院事務総長に就任した近藤英明(1902-1991)の関係文書を所蔵しています。小林次郎関係文書とともに、終戦前後の衆議院・貴族院両院の動きを知る手がかりになることが期待されます。

4 伊藤博文書簡 石田太郎宛

石田太郎宛の伊藤博文書簡(次頁写真)は、合計21通の書簡を3本の軸に仕立てたもので、時代は幕末期、伊藤博文(1841-1909)がまだ利助(あるいは利甫)と名乗っていた頃のもので、幕末期の伊藤の書簡はあまり多く残されておらず、当時の伊藤の活動や思想を探る上で貴重な史料といえます。

伊藤は安政6(1859)年9月に桂小五郎(のちの木戸孝允)とともに長州から江戸に出てきますが、これらの書簡は、それ以降に江戸で得た情報などを同志に報告したものと思われます。水戸藩浪士の不穏な動静や和宮降嫁、英国に対する隣国清の大敗など、切迫した当時の日本の状況を



伊藤博文書簡 石田太郎宛 部分 (憲政資料室収集文書 230-3)

感じさせます。宛名の石田太郎について詳細は不明ですが、伊藤博文から同卿の来原良蔵（木戸孝允の義弟）に送った書簡（万延元（1861）年12月7日付*）によれば、安政6（1859）年頃、英学修業のため長崎に行った人物だと思われます。今回公開する書簡のうちの1通で、伊藤は自身の英国留学の希望を石田に打ち明けています。また、同じ書簡のなかで、すでに函館等に英学修業に出ている長州の藩士たちについても触れ「桂右衛門君、野村弥吉君近日より箱館へ英学修業として、箱館よりスクネール船到来に付、帰船乗組罷越也。可羨。」と羨ましい気持ちを素直ににじませており、伊藤の英学修業への強い気持ちがうかがえます。

この書簡は、憲政資料室が寄贈や購入により収集したものをまとめた「憲政資料室収集文書」に収められています。（主題情報部政治史料課）

*春歓公追頌会編『伊藤博文伝 上巻』原書房 1970 p.85

伊藤博文（1841-1909）



写真：伊藤公資料館提供

憲政資料室のご案内 (東京本館 本館4階)

幕末から現代にいたる政治家・軍人・官僚などが所蔵していた私文書を集めた「憲政資料」、第二次世界大戦終了後の連合国による日本占領に関する米国の公文書を中心に集めた「日本占領関係資料」、主に北米・南米への日本人移民に関する資料を集めた「日系移民関係資料」を扱っています。



30分で伝える調べ方

国立国会図書館は、全国紙をはじめ、国内の地方新聞や業界紙、大学新聞や機関紙など、様々な新聞を古いものから最近のものまで所蔵しています。定期印刷刊行の新聞は17世紀にヨーロッパで創刊されたといわれており、日本では明治期に日刊紙の発行が始まりま



した。東京本館新聞資料室では日本の新聞は明治期から、外国の新聞は200年以上前のものから、復刻版やマイクロフィルムなどで当時の紙面をご覧いただけます。

そんな新聞資料室でよく耳にするのが、「古い新聞が見たい」というご要望。この「古い」の意味するところは十人十色で、1年前を指すこともあれば、100年以上前のこともあります。中でも多いのは明治・大正期の新聞についてのお問い合わせでしょうか。

東京本館では、このようなお問い合わせの多い事柄について30分で探し方・調べ方をご説明する「30分でわかる調べ方ガイダンス」を隔週金曜日に開催しています。テーマは毎回異なり、人気のあるテーマは繰り返し開催することもあります。

来館者向けのこのガイダンスでは、当日朝に整理券を配布して参加者を募っており、直前まで参加者の様子がわかりません。たくさんの参加者が集まることを祈りながら、テーマを決め、内容を考えます。「専門用語はできるだけ避けて、わかりやすくしなくては……」「クリックやリンクなどのいわゆるパソコン用語は使ってもいいだろうか……」など、悩みは尽きません。

リハーサルでさらに内容を吟味し、いよいよ当日。真剣な表情でメモをとる参加者の姿や活発な質疑応答に、準備の苦労も報われる気がします。

どなたでも気軽に参加できるこのイベント、開催の予定はもちろん、終了後には配布資料もホームページの「イベント・展示会情報」のページに掲載されます。講師の汗と涙の結晶をぜひご覧ください。 (新聞課資料係 猫派)

数字で見る国立国会図書館

『国立国会図書館年報 平成21年度』から

『国立国会図書館年報 平成21年度』をもとに、国立国会図書館の業務、サービス、組織に関するおもな数字を抜きました。

※数字は平成22年3月31日現在



ホームページでもご覧になれます。

国立国会図書館ホームページ
(<http://www.ndl.go.jp/>) >
刊行物 > 国立国会図書館年報



- 資料の収集・整理・保存に関すること 人事・財政・施設に関すること
 サービスに関すること インターネットで利用できるサービスに関すること

**国会へのサービス
依頼調査回答
4万1877件**

国会議員等からの依頼に基づき、国政課題や内外の諸事情に関する調査、法案の分析・評価などを行っている。

**行政・司法支部図書館
へのサービス
貸出1万580点**

支部図書館制度に基づき、各府省庁および最高裁判所に支部図書館が設置され、図書館サービス、資料の交換が行われている。

**一般へのサービス
来館者66万3504人**

東京本館	47万3927人
関西館	6万2207人
国際子ども図書館	12万7370人

開館日数は、東京本館・関西館279日、国際子ども図書館285日。

**ホームページへのアクセス
2944万2241件**

1日平均8万664件

インターネットを通じて、蔵書目録、国会会議録等の各種データベース、調べものに役立つ情報などが利用できる。

**近代デジタルライブラリー
で閲覧できるタイトル
10万8224件**

(15万5871冊分)

国立国会図書館が所蔵する、明治・大正期に刊行された図書の本文デジタル画像。

**一般へのサービス
レファレンス・サービス
53万604件**

東京本館	47万100件
関西館	4万9874件
国際子ども図書館	1万630件

口頭、文書、電話により回答する。

**総合目録データベースで
検索できる書誌データ
4195万9255件**

総合目録参加1110館

国立国会図書館および都道府県立、政令指定都市立図書館が所蔵する和図書のデータを提供している。

**児童書総合目録で
検索できる書誌データ
79万1884件**

新規タイトル4万36件

国内の主要類縁機関の参加を得て、所蔵データ、専門情報(あらすじ・解題、受賞情報)を提供している。

**一般へのサービス
来館複写申込
87万5155件**

東京本館	79万2754件
関西館	7万4396件
国際子ども図書館	8005件

来館して申し込む複写サービス。

**NDL-OPAC、アジア言語OPAC
で検索できる書誌データ
1069万1597件**

**雑誌記事索引データ
973万7091件**

NDL-OPACとは、国立国会図書館蔵書検索・申込システムのこと。

**一般へのサービス
図書館等への貸出
2万8181点**

東京本館	1万2441点
関西館	5540点
国際子ども図書館	1万200点

図書館への貸出し、学校図書館へのセット貸出し、展示会に出品するための貸出しがある。

**一般へのサービス
遠隔複写申込
25万8403件**

東京本館	14万2825件
関西館	11万4390件
国際子ども図書館	1188件

来館せずに、ホームページ等を通じて申し込む複写サービス。

**閲覧室面積
2万4837㎡**

東京本館	1万8983㎡
国会分館	562㎡
関西館	4265㎡
国際子ども図書館	1027㎡

東京本館には、9の専門資料室と6の閲覧室がある。

**一般へのサービス
閲覧259万5663点**

東京本館	243万6718点
関西館	11万8365点
国際子ども図書館	4万580点

来館して申し込む閲覧サービス。

**一般へのサービス
見学・参観6981人**

東京本館	3023人
関西館	1745人
国際子ども図書館	2213人

見学のお申込みは本誌表紙裏参照。

(総務部総務課)

図書館と読書 ドイツ・ヨーロッパの経験

バーバラ・リゾン氏

(「ドイツの図書館と情報」¹前代表、ブレーメン市立図書館長)



欧州の図書館政策・図書館振興

図書館は情報入手し、保存し、共有し、そして伝達する役割を担っています。欧州連合（EU）圏内でも、図書館は情報への無料アクセスや教育、生涯学習の確保に重要な役割を果たしています。

しかしEUでは最近まで、図書館が国民の知識発展に重要な役割を果たす場としては重視されていませんでした。90年代初めに、情報技術の開発や応用に貢献するという位置づけのもと、EUでいくつかのプロジェクトが実施されましたが、IT業界を後押しする意味が強かったようです。

90年代半ば頃からは、図書館をより包括的に捉え、公共図書館のサービスを情報化社会に統合していくことを目的としたPubliCA²と呼ばれるプロジェクトが始まりました。1999年にPubliCAは、欧州市民のための図書館の可能性に関する「コペンハーゲン宣言」を出しました。ここでは、欧

州委員会が情報政策を策定し、図書館のためのプログラムを構築する役割を担うべきだとされています。また、公共図書館の役割を再評価すること、過去の資料を保存している機関等と長期的な協力を構築することが記載されています。

このような図書館に関する包括的プロジェクトの結果、図書館が情報化社会やデジタル革命という大きな課題に対応するには、協力ネットワークの構築が不可欠であるとの認識が共有されるようになりました。欧州全体では、EBLIDA³（欧州図書館・情報・ドキュメンテーション協会連合）というネットワークがあります。

EBLIDAは、情報社会のあらゆる恩恵をすべての人が享受することを保障するために、情報関連法、文化、教育といった面で図書館等への協力・支援を行うことを目的に設立されました。「図書館のためのロビー活動を行う」というスローガンのもと、欧州議会、欧州理事会、そしてその他の欧州の図書館とのネットワークを構築することを目指しています。また、欧州全体を網羅する電子図書館プロジェクトであるEuropeana⁴にも携わっています。

ドイツでは、ドイツ全国の共同プロジェクトで

1 BID: Bibliothek und Information Deutschland
2 PubliCA: Public Libraries Concerted Action
3 EBLIDA: European Bureau of Library, Information and Documentation Associations
4 欧州の文化遺産を検索できるポータルサイト。詳細は本誌594（2010年9月）号 pp.12-13および586（2010年1月）号 pp.4-10参照。

ある、ドイツ・デジタル・ライブラリー⁵の構築が進んでいます。2011年から公開される予定で、図書館・公文書館・美術館といった機関が保有するデジタルコンテンツを提供するポータルサイトを構築するということです。

ドイツの読書振興

ドイツは公共図書館が比較的よく利用されている国

ですが、2000年のPISA（OECD生徒の学習到達度調査）の結果ががんばりしかなかったことを契機に、読書振興の試みが盛んになりました。

ブレーメンでは、年齢に合わせた読書振興プログラムを実施しています。乳幼児に対しては、図書館が本のセットを用意し、小児科医がそれを定期健診に訪れた保護者に渡すというプログラムを実施しています。このセットには、普段図書館に訪れないような保護者のために、本だけでなく期間限定の無料利用カード⁶も入っています。その後、幼稚園から小学校7年生になるまでは、読解力の強化や、読書の楽しさを伝えることを目的とした一連のプログラムを実施しています。主体は幼稚園や学校ですが、図書館では館内と同様の



講演の配布資料から転載

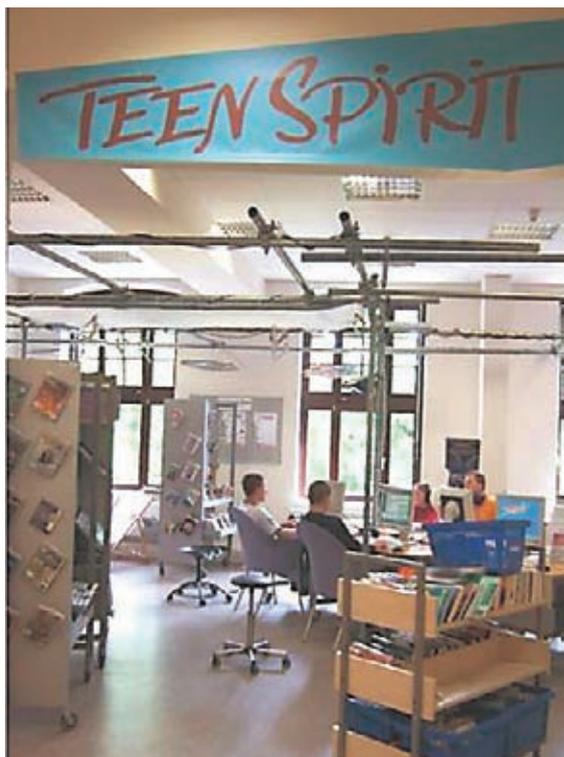
サービスを幼稚園や学校でも提供できるようにしています。その結果、12歳までの子どもの半数以上が図書カードを保有するようになりました。これは、ドイツでは他の年齢層に比べて非常に高い保有率です。

10代の若者については、この年齢特有の心理

5 Deutsche Digitale Bibliothek <http://www.deutsche-digitale-bibliothek.de/>

6 ドイツの公共図書館では、年間登録料などを徴収する有料制を導入しているところが多い。料金は州や図書館により異なり、ブレーメン州では年間登録料が25ユーロである（18歳までは無料、失業者などは別料金。平成22年10月現在、登録していなくても、入館して資料を利用したり問い合わせを行うことなどは可能）。

参考「ドイツの公共図書館」シー・ディー・アイ『諸外国の公共図書館に関する調査報告書』（文部科学省委託事業）2005 pp.131-149. http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/houkoku/06082211/007.pdf
Stadtbibliothek Bremen. Häufige Fragen. <http://www.stadtbibliothek-bremen.de/Hilfe-Service-Haeufige-Fragen.html?news=200>



講演の配布資料から転載

状態を考慮し、利用スペースを小さな子どもたちのための場所から離したり、この年代が関心をもつ内容の本を提供したり、コンピュータゲームを図書館に置くなど、彼らに図書館に行きたいと思わせるような試みを実践しています。また、図書館側だけではなく、子どもたちや若者が企画に参加するような特別プログラムを実施することもあります。読書推進の広報にはサッカー選手等の有名人を起用し、図書館とそのサービスに対して良いイメージをもたせることで、読書の重要性や図書館の様々な機能についての理解を促進しようとしています。

電子ブック

ドイツでは、利用者が自宅のPCや携帯端末を利用して、100以上の公共図書館で電子ブックやその他のデジタルコンテンツを利用することができます。これらのサービスを提供する図書館では、高機能な権利管理システムにより、24時間体制で電子ブック等の貸出を行っています。このサービスはドイツの図書館にとって革新的なもので、全く新しい形の読書推進活動となっています。

図書館の役割

図書館は、新しい技術やアイデアを従来のサービスに取り入れ、利用者が求めるサービスを構築していくことにより、よりよく利用される公共機関となる必要があります。

図書館が読書を推進し、読書が人間の基本的な能力であると位置づけて支援していくことで、社会全体がより知的に発展していけるのではないでしょうか。

(Barbara Lison

総務部支部図書館・協力課編)



この講演は平成22年7月13日に東京本館において行われました。

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

幻の写本 大澤本源氏物語

宇治市源氏物語ミュージアム刊
〒611-0021 宇治市宇治東内45-26
2009.10 63頁 30cm <請求記号 KG59-J140>

「源氏物語の本物を見たいのですが…」というお問い合わせを受けたことがあります。この「本物」が紫式部の自筆本を指すのならば、もう存在しないと考えられます。源氏物語には平安時代の写本は残されておらず、現存する写本のほとんどは、鎌倉時代の初めに藤原定家が校訂した青表紙本、または源親行・光行による河内本の系統とされています。しかし、少数ながら、このいずれにも属さない本文をもつ「別本」も伝わっているといわれています。

源氏物語千年紀にわたる2008年の夏、「別本」を多く含む大澤本が見つかったというニュースが流れました。「存在は知られていながら70年以上所在が不明であった」「ほかの写本にはない本文がある」「重文級の価値」という記事に、興味をそそられた人も多いのではないのでしょうか。

本書は、その大澤本の展示会の解説書です。

大澤本とは、奈良県の旧家、大澤家の先祖が豊臣秀吉から賜ったという伝承をもつものです（現所有者は大澤家ではない）。54帖の枳形本、列帖装。鎌倉末～南北朝期の写。古筆家らの鑑定によると、西行、阿仏尼、後醍醐天皇らが筆者にあてられています。昭和初期に国文学者、池田亀鑑が調査しましたが未了のまま、その後所在不明とされていました。

本書の執筆者、伊井春樹氏は、明治期の古典学者、小杉^{すぎむら}榎^{のり}の『鑑定筆記』の短い記録から、小杉もまた大澤本の鑑定をしたらしいことをつかんでいましたが「謎のまま今日にいたっていた」そうです。そ

こに新出本の知らせが入り、大澤本とともに伝わっていた小杉らの鑑定書類の数々を目にしたことで、伝来にまつわる事情が解き明かされてきます。「大澤本源氏物語の伝来」の章で語られる経緯は、人と書物の出会いの不思議さを感じさせてくれます。



「大澤本源氏物語本文の性格」の章では、38帖もの「別本」を含むという大澤本の本文が紹介されています。大澤本に従って読むと、読みなれた活字本とは異なる源氏物語の世界がたちあらわれてきます。青表紙本や河内本以前の、平安時代に読まれていた本文の一つを伝えている可能性もあるといえます。今後の研究は、大澤本抜きには考えられないでしょう。

さらに本書で見逃せないのは、「大澤本源氏物語の世界—資料編」に掲載される鑑定書類の図版です。この種の図録で、こうした鑑定書の全文をカラーで掲載するのは異例といえるのではないのでしょうか。添えられた翻字を助けに図版をたどり読んでいくと、今回、大澤本を、そして小杉らの鑑定書類を見出した驚きと感動が、じかに迫ってくるようです。

源氏物語の世界は、まだまだ解明し尽くされてはいません。本書を読んで、あらためて、「本物」の源氏物語とは…と、伝え継がれた千年の歴史に思いを馳せてみるのもよいかもしれません。

(主題情報部古典籍課 上田 由紀美)

※1部1,000円(送料別)で入手可能。詳細はミュージアムのウェブサイト (<http://www.uji-genji.jp/>) 参照。

布と暮らす人たち

東部インドネシアのイカット

平成20年度杉野学園衣裳博物館企画展

江上幹幸コレクション

江上幹幸監修 杉野学園出版部刊

〒141-8652 品川区上大崎4-6-19

2008.11 130頁 30cm <請求記号 KB16-J263>

インドネシアは世界でも有数の織物の国である。用途としては着用が最も多く、儀礼、祭礼の際には必ず伝統的な手織物を身につける。日常着としてTシャツなどと組み合わせて身に纏う人もいる。イカットとは緋織物と技法の総称で、糸を部分的に束ねて括り、染め分けて模様を織り出した布のことであるが、インドネシアが緋の宝庫であることから、インドネシア語で「縛る」「括る」を意味する「ムンイカット」を由来とする「イカット」という言葉が世界共通語となっている。

イカットの着方としては、筒状にした腰衣（サロン）が代表的である。部分ごとに模様が異なるため、巻き方によって全く違う印象となる。このほか、肩から斜めに垂らしたり、寒さや日差しを防ぐため頭からかぶったりもする。伝統的な手法によって手作業で染め、織られており、産地によって色合いや模様が異なることも魅力の一つである。

本書は、インドネシアの中央部南側の東ヌサ・トゥンガラ州を二つの地域に分け、第1部でティモール島西部、第2部でフローレス島東部とその周辺の島々の、イカットや生活用具約160点を鮮明な写真で紹介する展覧会図録である。

第1部のティモール島西部のイカットは、全体的に茜色が多用されており、色鮮やかなものが目につく。藍を基調にした布にも、茜色や黄色（ウコン色）

などで模様がはっきりと織り込まれている。模様は、菱形や鉤形の幾何学模様のほか、人、ワニ、カエル、魚、虫、鳥などがユーモラスな形にデフォルメされていて、いくら眺めても見飽きることがない。



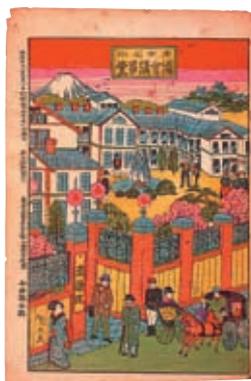
第2部のフローレス島東部とその他の島々のイカットは、藍色や赤褐色を基調にした渋い色彩の布が多い。本書によれば、この地域では、イカットは、まず第一に結婚の際に花嫁側から花婿側へ贈られる「婚資」として重要な役割を果たしているそうである。赤褐色は、藍の上に茜色を重ね染めして出された色で、婚資用の布には、必ずこの重ね染めの技法が使われている。柄は、インド北西部の絹織物パトラの影響を受けた幾何学模様を中心である。

巻末のコラム「日本の緋とイカット」（鈴木美和子著）では、日本の緋の産地や技法がイカットと対比して紹介されている。色合いや柄は全く異なるが、その土地の風土や風習が色濃く表れた伝統工芸という点では、日本の緋もイカットも同様であるといえる。このほか、各地域の織物の用途、技法、染色方法、柄の意味などについての解説や、イカットを身につけた人々の写真も掲載されている。本書をきっかけに、イカットを見て楽しむだけでなく、産地や柄に込められた意味、さらにその布を織り、纏う人々の生活に思いを馳せるようになるかもしれない。織物の楽しみ方を広げてくれる一冊である。

（収集書誌部外国資料課 小笠原 綾）

お知らせ

■ 議会開設 百二十年記念 議会政治展示会



【国会議事堂錦絵】
明治28（1895）年

日本の議会は、明治23（1890）年11月29日に第1回帝国議会の開院式が行われてから、今年、平成22年に開設120年を迎えます。これを記念して、国会では各種の行事が予定されています。国立国会図書館は、記念行事の一環として、議会開設百二十年記念 議会政治展示会を開催します。

展示会は2部構成で、激動の幕末から明治初期に人々が政治のあるべき姿を追究し、議会開設に向けて努力してきた道のりを紹介する「第一部 議会政治への道」と、大正後期から昭和30年のいわゆる55年体制の確立までを紹介する「第二部 昭和の政党政治」からなります*。国立国会図書館が所蔵する、坂本龍馬、木戸孝允、岩倉具視、伊藤博文、西園寺公望、浜口雄幸、高橋是清、吉田茂、鳩山一郎ほか、議会にかかわった人物の書簡、日記、覚書と政党等の文書など約80点を展示します。ぜひご来場ください。

*帝国議会開設から大正13（1924）年普通選挙実現までの期間については、衆議院憲政記念館が同時に開催する展示会「『政党政治への道—議会開幕から本格的政党内閣誕生へ—』特別展」でご覧になれます。

○フロアレクチャーのご案内

講師：季武嘉也（創価大学文学部教授、国立国会図書館客員調査員）

日時：12月2日（木）14:00～ および 12月7日（火）11:00～（40分程度）

*参加申込方法はホームページ等でお知らせします。

○お問い合わせ先

国立国会図書館展示会事務局

電話 03（3506）5260（直通） 電子メール webcont@ndl.go.jp

開催期間 平成22年12月1日（水）～10日（金）（期間中無休）

開催時間 9:30～17:00

会場 衆議院憲政記念館 1階会議室（東京都千代田区永田町1-1-1）

入場 無料

※衆議院憲政記念館「政党政治への道—議会開幕から本格的政党内閣誕生へ—」特別展

主催 衆議院憲政記念館（お問い合わせ先 03（3581）1651）

会場 衆議院憲政記念館 2階展示室

開催期間 平成22年11月18日（木）～12月10日（金）（期間中無休）

開催時間 9:30～17:00（最終受付16:30）

入場 無料

お知らせ

■ 第12回図書館総合展に参加します



昨年の展示ブース

図書館に関する国内最大の展示会である、第12回図書館総合展に参加します。展示ブースでは、「クローズアップNDL」をテーマに国立国会図書館のサービスをご紹介します。また、特別展示「国際子ども図書館 10年のあゆみとこれから」を行います。ポスターセッションでは、カレントアウェアネス・ポータルとレファレンス協同データベース事業を取り上げます。

期間中に、次の講演会（フォーラム）を開催します。ぜひご来場ください。

- 日 時 11月25日（木）10:30～12:00
11月26日（金）10:30～12:00（両日とも同じ内容）
- 会 場 パシフィコ横浜 会議センター3階 第2会場（定員約250名）
- 演 題 「MLA（博物館・図書館・文書館）のデジタルアーカイブ連携
—世界、そして日本」
- 講 師 菅野育子氏（愛知淑徳大学大学院文学研究科教授）
大場利康（国立国会図書館関西館電子図書館課長）
原田久義（国立国会図書館関西館主任司書）
- お申込方法
ホームページの参加申込みフォームからお申し込みください。
国立国会図書館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp/>）>イベント・展示会情報
URL <http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/lff2010.html>
または次の事項を明記の上、FAXでお申し込みください。
①イベント名（図書館総合展フォーラム）、②参加希望日、③氏名（ふりがな）、
④電話番号・FAX番号、⑤所属（図書館などに所属されている方のみ）
受付は先着順です。
- お申込み・お問い合わせ先
国立国会図書館 総務部総務課広報係
FAX 03（3597）5617 電話 03（3581）2331（代表）

第12回図書館総合展

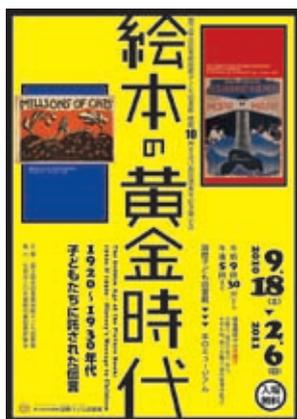
期間 11月24日（水）～11月26日（金） 10:00～18:00

会場 パシフィコ横浜 展示ホールC

主催 図書館総合展運営委員会

お知らせ

■ 国際子ども図書館 開館10周年及び 国民読書年記念展示会 「絵本の黄金時代 1920～1930年代 一子どもたちに 託された伝言」 関連シンポジウム



展示会の詳細は
ホームページをご覧ください。
国際子ども図書館のページ
>展示会・イベント
[http://www.kodomo.go.jp/
event/index.html](http://www.kodomo.go.jp/event/index.html)

国際子ども図書館では、展示会「絵本の黄金時代1920～1930年代—子どもたちに託された伝言」の関連行事として、シンポジウム「絵本の黄金時代1920～1930年—アメリカとソビエトを中心に—」を開催します。「絵本の黄金時代」といわれる1920～1930年代に両国で花開いた、子どもたちに新しい社会の訪れを伝える絵本文化について、専門家によるトークセッションにより、その魅力を探ります（同時通訳付き）。展示会、シンポジウムはいずれも入場無料です。

○日 時：11月27日（土）14:00～16:30（予定）

○会 場：国際子ども図書館 3階ホール

○パネリスト：レナード・マーカス氏（アメリカ児童文学評論家）

ヴェレナ・ラシュマン氏（元スイス児童・青少年メディア研究所
付属ヨハンナ・シュペーリ文書館学芸員）

コーディネーター：島多代氏

（展示会監修者、社団法人日本国際児童図書評議会会長）

○対 象：中学生以上（定員100名）

○お申込方法

次のいずれかの方法で、参加者1名につき1通に、氏名（ふりがな）、年齢、郵便番号、住所、電話番号をご記入の上、お申し込みください（11月12日（金）必着）。申込多数の場合は抽選となります。

〔往復はがき〕〒110-0007 台東区上野公園12-49

国際子ども図書館「11月27日シンポジウム」係

〔電子メール〕golden-a@kodomo.go.jp

（タイトル・件名欄に「11月27日シンポジウム申込み」とお書きください）

○お問い合わせ先

国立国会図書館国際子ども図書館 企画協力課

電話 03 (3827) 2053（代表）

展示会のご案内

開催期間 平成22年9月18日（土）～平成23年2月6日（日）

休館日 月曜日、国民の祝日・休日、年末年始、
第3水曜日（資料整理休館日）

開催時間 9:30～17:00



お知らせ

■ 平成22年度 障害者サービス 担当職員向け講座

図書館における障害者サービスの基礎的な知識および技術を習得することを目的として、平成22年度障害者サービス担当職員向け講座を実施します。

- 開催日 平成22年12月7日（火）～9日（木）
- 会場 関西館 第1研修室（実習は外部機関）
- 対象 公共図書館職員、大学図書館職員。定員に余裕のある場合は、類縁機関（視覚障害者情報提供施設等）の職員等の参加も可とします。
- 定員 20名。実習は10名。応募者多数の場合は調整します。
- 内容 障害者サービス実施のために必要な基礎知識（概論、著作権法、資料）、実際のサービス事例（視覚障害者、聴覚障害者、矯正施設入所者）をもとに講義を行います。2日目はワークショップ形式で障害者サービス計画の作成演習を、3日目は障害者サービスを行っている機関で実習を行います。
- 参加費 無料。ただし、旅費・滞在費等は受講者の負担とします。
- お申込方法 ホームページに掲載している申込書にご記入の上、電子メール、FAXまたは郵送でお申し込みください（11月5日（金）必着）。

○お申込み・お問い合わせ先

国立国会図書館関西館 図書館協力課障害者図書館協力係
電子メール syo-ky@ndl.go.jp FAX 0774 (94) 9117
〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話 0774 (98) 1457（直通）

※研修内容の詳細および申込書はホームページをご覧ください。

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

>図書館員の方へ>視覚障害者への図書館サービス

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/library/supportvisual/supportvisual.html>

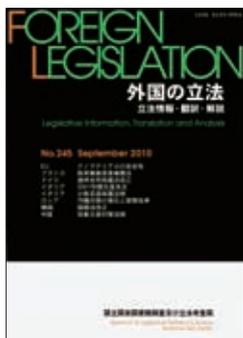
お知らせ

■ 図書館協力事業に関する情報を ツイッターで 発信しています

国立国会図書館は、9月21日から、総合目録ネットワーク事業、レファレンス協同データベース事業に関する情報をツイッター（Twitter）で発信しています。これまで発信してきた「カレントアウェアネス」関連情報に加えて、3種類のアカウントで関連ホームページの更新情報、イベント情報などをお知らせします。どうぞご利用ください。

- 「カレントアウェアネス」のアカウント ca_tweet
- 総合目録ネットワーク事業のアカウント unicanet
- レファレンス協同データベース事業のアカウント crd_tweet

■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



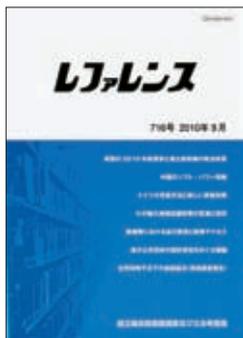
外国の立法 立法情報 翻訳 解説 第245号 A4 175頁
季刊 1,890円 発売 日本図書館協会 (ISBN 978-4-87582-702-3)

<主要立法（翻訳・解説）>

- ・ナノマテリアルの安全性—EUの化粧品規則制定をめぐって
- ・フランスにおける核実験被害者補償法
- ・ドイツの連邦自然保護法改正—2006年連邦制改革を受けて
- ・イタリアの2001年観光基本法—観光政策の現代化と観光行政の地方自治体への委譲
- ・イタリアにおける少数言語保護法制
- ・韓国の国籍法改正—限定的な重国籍の容認
- ・中国の気象災害への取組み—気象災害防御条例の制定

<主要立法（解説）>

- ・ロシアにおける汚職対策の強化と警察改革



レファレンス 716号 A4 149頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会

- ・英国の2010年総選挙と連立新政権の政治改革
- ・中国のソフト・パワー戦略
- ・ドイツの児童手当と新しい家族政策
- ・わが国大規模店舗政策の変遷と現状
- ・医療費における自己負担と医療アクセス
- ・地方公共団体の国政参加をめぐる議論
- ・世界同時不況下の地域経済（現地調査報告）

お知らせ



カレントアウェアネス 305号 A4 24頁 季刊 420円 発売 日本図書館協会

- ・国内の公共図書館における法情報提供サービス
- ・国立公文書館におけるデジタルアーカイブの取組みについて
- ・セクシュアル・マイノリティの問題と図書館への期待
- ・シンガポール国立図書館のビジネス支援サービス

<動向レビュー>

- ・ディスカバリ・インターフェース（次世代OPAC）の実装と今後の展望

<研究文献レビュー>

- ・図書館の「広報」は進化しているか？—説明責任と自己アピールの時代に求められる理論と実践—



平成21年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録

「いつ、何と出会うか—赤ちゃん絵本からヤングアダルト文学まで」

A4 116頁 年刊 1,680円 発売 日本図書館協会 (ISBN 978-4-87582-701-6)

- ・赤ちゃん絵本—赤ちゃんは音を食べる
- ・幼年童話
- ・紙芝居・共感の楽しさ素晴らしさ
- ・ヤングアダルト文学
- ・参考図書紹介—「子どもの本のブックリスト」のブックリスト：対象の記載がある国際子ども図書館所蔵資料を中心に
- ・対談、質疑応答

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03 (3523) 0812

CONTENTS

- 02 Book of the month - from NDL collections
Mitate banzuke
Ranking list of the Kyoko Yamanaka collection
- 04 Strolling in the forest of books (special version)
Nine books selected by Dr. Makoto Nagao, the Librarian of the NDL, for Book Week
- 06 Meet the world by reading books
Book sets lending service to school libraries
- 12 Materials newly available in the Modern Japanese Political History Materials Room
- 20 The NDL in figures
From the Annual Report of the NDL, FY2009
- 22 Libraries and reading in Germany and Europe
- 19 <Tidbits of information on NDL>
Half-hour lesson on how to research
- 25 <Books not commercially available>
○ *Maboroshi no shahon : Osawabon Genji monogatari*
○ *Nuno to kurasu hitotachi : tobu Indonesia no Ikatto : Heisei 20-nendo Suginogakuen Isho Hakubutsukan kikakuten : Egami Tomoko korekushon*
- 27 <Announcements>
○ Exhibition on parliamentary government : commemorating the 120th anniversary of the establishment of the Diet
○ Library Fair & Forum 2010
○ Lecture "Picture Books of the 1920s : Their Message to Children"
○ Training program for librarians in charge of services for persons with disabilities 2010
○ Information for librarians now available on Twitter
○ Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成22年10月号 (No.595)

発行所 国立国会図書館
編集責任者 山田敏之
〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp

平成22年10月20日発行 定価525円
(本体500円)

発売 社団法人日本図書館協会
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電話 03 (3523) 0812 (販売)
FAX 03 (3523) 0842
E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社正文社印刷所

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜き抜して転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 「刊行物」 > 「国立国会図書館月報」でご覧いただけます。



『生写四十八鷹』から 四十から 一行寺の紅葉帰味の桜
嵩岳堂画 紅英堂 安政6（1859）年
1帖 36.0×24.4cm
<請求記号 寄別7-8-2-3>

国立国会図書館月報

平成22年10月20日発行（毎月1回20日発行）
10月号通巻595号

発売：社団法人 日本図書館協会 定価 525 円（本体 500 円）